

# 実践記録

121

シリーズ

## 岩室ふるさと講座の開講

新潟市西蒲区岩室地区公民館 竹内みよ子

### 1. はじめに

今、時代に即した公民館のあり方とともに、その方向性も問われる時代となって来ているが、だからこそ、今、地域が一体となって伝統の上に創意工夫を加え、足元から地域を見直す時期と考える。

それらを踏まえ、19年度は「岩室ふるさと講座」を開講した。海、山、平野と自然に恵まれ、温泉とともに長い歴史を刻む岩室には今も変わることなく、かけがえのない財産が残されている。講座を通して、その自然や歴史、文化に触れながら故郷再発見につなげ、地域活性化を願う。

### 2. 内容

回	日程	内容
1	7月14日(土) 10:00~12:00	岩室の郷土食「間瀬の銅壺鍋」
2	9月29日(土) 9:00~14:00	岩室の名水と多宝山の山野草 名水を使ったミニ茶会(お寺)
3	10月11日(木) 9:30~15:00	間瀬を拓いた西堀の「泉性寺」の歴史を訪ね、また、間瀬大工の残した遺構を検証
4	11月10日(土) 16:00~18:00	囲炉裏のあった暮らしと郷土食 旧庄屋「佐藤家」

#### ■ 1回目

間瀬の漁師が船上で煮炊きした「銅壺鍋」の再現。講師の本間さん(85歳)「この銅壺鍋もおれが居なくなったら、わかる者は誰もいなくなるから」と引き受けてくださった。今、まさに消えつつある「銅壺鍋」の再現。獲りたてのアンコウさばきがまた大胆で、参加者も興味津々であった。味噌仕立てで美味しかったその味もまた懐かしい物になり、忘れ去られてしまうのだろうか。寂しい限りだ。



銅壺鍋

#### ■ 2回目

約一千種類もあるという「多宝山」の植物。林道を一步入れば、そこはまさに植物の宝庫。何百年と生きてであろうその風格と向き合えば、木々の持つ生命力がひしひしと伝わり、自然によって生かされていることに気づかされる。また、「名水」とその「いわれ」に触れながら参加者は心地よい汗を流し、最後は浄専寺でのミニ茶会。県文化財の趣と静寂な庭園を眺めながらのいっぷくは、これまた格別であった。



多宝山の山野草

#### ■ 3回目

西堀の泉性寺と聞くと、皇太子妃雅子様ご実家の菩提寺であることを知る人も多い。今回はその泉性寺が今からおよそ350年前、岩室の夏井地区にあったというところからスタート。その寺跡から西堀へと歴史を追ってみた。また、間瀬の大工集団が建築した吉田神社、清徳寺(内野)を訪ね、間瀬大工の優れた彫刻の技法に目を奪われ、先人の伝統の技をしのんだ。



泉性寺跡の説明

#### ■ 4回目

その昔、家族憩いの場でもあった囲炉裏端には真っ赤に炭が熾き、自在カギに吊るされた鉄瓶にはジンジンと湯が沸いて客を迎えてくれる。昔ながらの「かまふるさと講座、囲炉裏のあるくらしど」を使ってご飯が炊き上がると、いよいよケンサ焼きに挑戦! 「大き過ぎる」やら「もっと丸く!」と厳しい講師の声が飛ぶ中、さっそく網の上に並べる。「昔はこうして年寄りから昔話を聞いたなあ〜」参加者それぞれの思いと重ね合わせて、なごりの尽きない秋の夜は過ぎて…。



### 3. おわりに

「ふるさと講座」開講にあたって、何よりも心強かったのは「公民館協力員」の制度であって、10名の協力員がそれぞれの特技、知識をフルに生かした協力は見事なもので、公民館も大いに学ばせられた。企画当初「地域は今何を求めているのか」「手探り状態でのスタートだったが、4講座とも定員をはるかに超える反響があり、すぐにその思いは解消するに至った。

結果、希望者には全員参加していただきたいという思いから、最大の工夫をして取り組み好評を得た。内容については、歴史や自然、文化や食と少々欲張ったきらいもあったが、自然を通して自然界の命の重みを肌で感じ、昔の懐かしい暮らしぶりにどっぷりと癒された。そして、先人の足跡を辿りながら歴史やその遺構に触れることができた感慨深い「ふるさと講座」となった。

20年は、岩室のシンボル多宝の山脈として、直江兼統ゆかりの天神山や山岳信仰にスポットを当て継続予定。